

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 8月13日
Date of Application:

出願番号 特願2002-235537
Application Number:

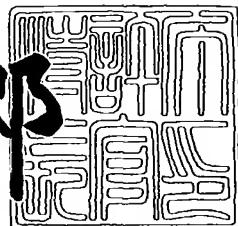
[ST. 10/C] : [JP 2002-235537]

出願人 高砂香料工業株式会社
Applicant(s):

2003年 7月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



【書類名】 特許願

【整理番号】 020803

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 C11D 7/26

C11D 3/50

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区蒲田五丁目37番1号 ニッセイアロマス
クエア17階 高砂香料工業株式会社内

【氏名】 櫻井 和俊

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区蒲田五丁目37番1号 ニッセイアロマス
クエア17階 高砂香料工業株式会社内

【氏名】 太田 英明

【特許出願人】

【識別番号】 000169466

【氏名又は名称】 高砂香料工業株式会社

【代表者】 新村 嘉也

【代理人】

【識別番号】 100100734

【弁理士】

【氏名又は名称】 江幡 敏夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 177519

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9805696

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 硬質物体表面洗浄液用組成物

【特許請求の範囲】

【請求項1】 2, 6-ジメチル-2-ヘプタノール、3, 3'-ジメチルシクロヘキシルメチルケトン、o-tert-ブチルシクロヘキサノール、 α -アミルシンナミックアルデヒド、 α -ダマスコン、 γ -オクタラクトン、 γ -ノナラクトン、 γ -デカラクトン、アネトール、安息香酸エチル、2, 2, 6-トリメチルシクロヘキサンカルボン酸エチルエステル、2, 6, 6-トリメチル-1-クロトニルシクロヘキサン、7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン、イソアミルフェニルエチルエーテル、オクチカルボン酸メチル、6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタメチル-4 (5H)-インダノン、酢酸トリシクロデセニル、ウンデシルアルデヒド、酢酸フェンキル、ジヒドロジャスモン、セドリルメチルエーテル、パラクレゾール、ヘキシルアルデヒド及びローズフェノンから選ばれる香料化合物の1種又は2種以上を含有することを特徴とする硬質物体表面洗浄液用香料組成物。

【請求項2】 有機酸でpH2.0～pH3.0に調整した請求項1記載の硬質物体表面洗浄液用香料組成物。

【請求項3】 有機酸がシュウ酸および/またはマロン酸である請求項1または2記載の硬質物体表面洗浄液用香料組成物。

【請求項4】 有機酸がヒドロキシカルボン酸である請求項1または2記載の硬質物体表面洗浄液用香料組成物。

【請求項5】 ヒドロキシカルボン酸が、リンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸、グルコン酸から選ばれる少なくとも1種のヒドロキシカルボン酸である請求項4記載の硬質物体表面洗浄液用香料組成物。

【請求項6】 請求項1または2記載の香料組成物を含有することを特徴とする硬質物体表面洗浄液組成物。

【請求項7】 有機酸でpH2.0～pH3.0に調整した請求項6記載の硬質物体表面洗浄液組成物。

【請求項8】有機酸がシュウ酸および/またはマロン酸である請求項6または7記載の硬質物体表面洗浄液組成物。

【請求項9】有機酸がヒドロキシカルボン酸である請求項6または7記載の硬質物体表面洗浄液組成物。

【請求項10】ヒドロキシカルボン酸が、リンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸、グルコン酸から選ばれる少なくとも1種のヒドロキシカルボン酸である請求項9記載の硬質物体表面洗浄液組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は硬質物体表面洗浄液用香料組成物、および該香料組成物を含有する有機酸で酸性に調整した酸性硬質物体表面洗浄液組成物に関する。とくに有機酸でpH2.0～3.0に調整した硬質物体表面洗浄液用香料組成物あるいは硬質物体表面洗浄液組成物に関する。

【0002】

【従来技術】

従来から住居の浴室のタイルやトイレの便器など硬質物体表面洗浄に適した洗浄剤が数多く開発され、報告されている。これら洗浄剤の中でも、洗浄効率や使用時の安全性などの点から有機酸酸性の硬質物体表面洗浄剤が注目されている。その洗浄剤に関する技術として、例えば有機酸と有機酸のナトリウム塩を併用すること（特開昭53-94309号公報）、ヒドロキシカルボン酸と界面活性剤とを併用すること（特開昭55-147600号公報）、ヒドロキシカルボン酸などの成分を固形化すること（特公平7-116479号公報）、ヒドロキシカルボン酸を含む酸性ミクロエマルジョンとすること（特開平7-305100号公報）などが報告されている。それらの技術は、いかにして汚れを除去するかなど、洗浄機能に着目し、洗浄能力を高めることを目的とするものである。そして、各文献には洗浄剤中に香料を併用することができるとの記載があるが、用いられる香料については、詳細な検討がされていないし、香料の内容についてまで記載されていない。僅かに、特開平7-305100号公報に、香料については

—テレピネオールが適切であるとの記載があるが、単に適切であるとされているだけであって、詳細な検討はなされていないし、ましてやその他の香料についてまで詳細な検討はなされていない。

【0003】

近年、洗浄液に関しては、高い洗浄能力だけでなく、消費者にとって好ましい匂いを賦香した製品が要求されてきた。とくに住居内で使用される製品に対しては長い時間にわたって好ましい匂いが保たれるよう強く要求してきた。その要求を満足させるために、単に香料を洗浄液中に添加・配合したとしても、その要求を満たすことはできない。その理由は主に次のとおりである。すなわち、香料にはエステル基やアルデヒド基などをもつ化合物も多く、それら香料の強酸性水溶液あるいは分散液を長期間保管した場合、保管中に香料は加水分解されたり酸化される可能性がある。とくに、香料化合物を含有する強酸性水溶液あるいは分散液を長期間保管した場合、溶液あるいは分散液の外観の変化や匂いの変質あるいは沈殿物の生成等調製当初の品質が損なわれる恐れがある。

【0004】

有機酸で強い酸性に調整された水溶液あるいは分散液は、硬質物体表面の洗浄剤として幅広く利用可能だが、使用時に好ましい匂いを賦香した製品を提供することは極めて、重要なことである。その配合する香料の選定にあたり、強酸性、とくにpH 2.0～3.0に調整した酸性硬質物体表面洗浄液中において安定な香料化合物や香料組成物が求められる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

従って、本発明の目的は、有機酸で酸性、特にpH 2.0～3.0に調整した酸性硬質物体表面洗浄液中で長期間安定な香料化合物及び香料組成物を見いだすことである。さらには、これらの香料化合物や香料組成物を含有し、有機酸で強い酸性に調整された硬質物体表面洗浄液組成物を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、上記課題を解決するために鋭意検討を行った結果、2, 6-ジ

メチル-2-ヘプタノール、3, 3'-ジメチルシクロヘキシルメチルケトン、
 o-tert-ブチルシクロヘキサノール、 α -アミルシンナミックアルデヒド
 、 α -ダマスコン、 γ -オクタラクトン、 γ -ノナラクトン、 γ -デカラクトン
 、アнетール、安息香酸エチル、2, 2, 6-トリメチルシクロヘキサンカルボ
 ン酸エチルエステル、2, 6, 6-トリメチル-1-クロトニルシクロヘキサン
 、7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6
 , 7-テトラメチルナフタレン、イソアミルフェニルエチルエーテル、オクチン
 カルボン酸メチル、6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタメチル-
 4 (5 H)-インダノン、酢酸トリシクロデセニル、ウンデシルアルデヒド、酢
 酸フェンキル、ジヒドロジャスモン、セドリルメチルエーテル、パラクレゾール
 、ヘキシルアルデヒド及びローズフェノンから選ばれる香料化合物を1種又は2
 種以上含有する香料組成物が、有機酸で酸性に調整した硬質物体表面洗浄液中に
 おいて、長期間保管後も配合した当初と比較して、着色や沈殿物発生のような外
 観面並びに香質面での変化も全くなく、更に硬質物体表面洗浄液のpHの変化も
 ほとんど起こさない香料組成物であることを見いだし、さらに研究を続け、遂に
 本発明を完成した。

【0007】

すなわち、本発明は

2, 6-ジメチル-2-ヘプタノール、3, 3'-ジメチルシクロヘキシルメチ
 ルケトン、o-tert-ブチルシクロヘキサノール、 α -アミルシンナミック
 アルデヒド、 α -ダマスコン、 γ -オクタラクトン、 γ -ノナラクトン、 γ -デ
 カラクトン、アнетール、安息香酸エチル、2, 2, 6-トリメチルシクロヘキ
 サンカルボン酸エチルエステル、2, 6, 6-トリメチル-1-クロトニルシク
 ロヘキサン、7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-
 1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン、イソアミルフェニルエチルエーテル
 、オクチンカルボン酸メチル、6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタ
 メチル-4 (5 H)-インダノン、酢酸トリシクロデセニル、ウンデシルアルデ
 ヒド、酢酸フェンキル、ジヒドロジャスモン、セドリルメチルエーテル、パラク
 レゾール、ヘキシルアルデヒド及びローズフェノンから選ばれる香料化合物の1

種又は2種以上を含有する硬質物体表面洗浄液用香料組成物、

有機酸でpH2.0～pH3.0に調整した上記硬質物体表面洗浄液用香料組成物、

有機酸がシユウ酸および/またはマロン酸である上記硬質物体表面洗浄液用香料組成物、

有機酸がヒドロキシカルボン酸である上記硬質物体表面洗浄液用香料組成物、

上記ヒドロキシカルボン酸が、リンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸、グルコン酸から選ばれた少なくとも1種である上記硬質物体表面洗浄液用香料組成物、

【0008】

上記香料組成物を含有する硬質物体表面洗浄液組成物、

有機酸でpH2.0～pH3.0に調整した上記硬質物体表面洗浄液組成物、

有機酸がシユウ酸および/またはマロン酸である上記硬質物体表面洗浄液組成物、

有機酸がヒドロキシカルボン酸である上記硬質物体表面洗浄液組成物、

ヒドロキシカルボン酸が、リンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸、グルコン酸から選ばれた少なくとも1種である上記硬質物体表面洗浄液組成物

を提供する。

【0009】

【発明の実施の形態】

以下、本発明をさらに詳細に説明する。

本発明において用いられる香料化合物は、2, 6-ジメチル-2-ヘプタノール、3, 3'-ジメチルシクロヘキシルメチルケトン、o-tert-ブチルシクロヘキサノール、 α -アミルシンナミックアルデヒド、 α -ダマスクン、 γ -オクタラクトン、 γ -ノナラクトン、 γ -デカラクトン、アネトール、安息香酸エチル、2, 2, 6-トリメチルシクロヘキサンカルボン酸エチルエステル、2, 6, 6-トリメチル-1-クロトニルシクロヘキサン、7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン、イソアミルフェニルエチルエーテル、オクチシカルボン酸メチル、6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタメチル-4(5H)-インダノン、酢酸トリ

シクロデセニル、ウンデシルアルデヒド、酢酸フェンキル、ジヒドロジャスモン、セドリルメチルエーテル、パラクレゾール、ヘキシリアルデヒド及びローズフェノンである。これらの香料化合物の中から1種又は2種以上を配合し、硬質物体表面洗浄液用香料組成物とする。また、これら香料化合物だけではなく、所期の目的を達成する範囲内でこれらの化合物を成分として含む天然香料や精油なども本発明の香料成分として用いることができる。なお、本発明では硬質物体とは浴室内では浴槽、内壁など、トイレ内では便器など、台所内ではシンク、内壁などで用いられる、それ自体が硬い性質を有する物質から構成されている物体を意味する。

【0010】

上記香料化合物は既知の方法で合成することができる。また、上記香料化合物あるいはこれらの化合物を成分として含む天然香料や精油などは市販品を購入してもよい。

本発明では、本発明の香料化合物の1種又は2種類以上を、香料組成物全量に対して10重量%～100重量%配合する。

【0011】

本発明の香料組成物に、所期の目的を達成することができる限り、他の香料化合物あるいは配合剤を添加してもよい。上記他の香料化合物として、2-ペンチロキシグリコール酸アリル、p-エチル-2,2-ジメチルヒドロシンナムアルデヒド、 α -フェンキルアルコール、 β -ダマスクン、安息香酸シス-3-ヘキセニル、3a,6,6,9a-テトラメチルデカヒドロナフト[2,1-b]フラン、イソボニルシクロヘキサノール、エチルヘキサヒドロ-4,7-メタノインデシ-3a-カルボキシレート、クマリン、クミンアルデヒド、サリチル酸アミル、サルチル酸ベンジル、シクラメンアルデヒド、シクロヘキシリプロピオン酸アリル、ジヒドロインデニル-2,4-ジオキサン、ジヒドロジャスモン酸メチル、ジヒドロミルセノール、ジフェニルオキサイド、シンナミックアルコール、テトラヒドロムゴール、フェニル酢酸エチル、ヘキサメチルヘキサヒドロシクロペンタベンゾピラン、ヘキシリアルコール、ヘプチルアルデヒド、ベンズアルデヒド、ボルネオール、メチルフェニルグリシド酸エチル、メントン、ラズベリーケトン及びウン

デシルアルデヒドなどを挙げることができる。これら香料化合物を酸性洗浄液中に添加・配合し、長期間保管しておいても、経時的に外観の変化はなく、さらに、香質の変化も少いのであるから、本発明での好適な香料化合物として用いることができる。

【0012】

本発明では、上記香料組成物に有機酸を添加・配合することにより強い酸性に調整した硬質物体表面洗浄液組成物を得ることができる。このとき、pH値は低い方が優れた洗浄効果を期待できるが、住居内で使用することを考慮すれば、安全性等からpH2.0～3.0程度の酸性にすることが好ましい。

本発明に用いられる有機酸としてはシュウ酸、マロン酸单独あるいはそれらの混合物を用いることが好ましい。その他の有機酸としてはヒドロキシカルボン酸が挙げられ、その中でもとくにリンゴ酸、クエン酸、酒石酸、乳酸、グルコン酸などから選ばれる少なくとも1種のヒドロキシカルボン酸が好ましい。

【0013】

上記硬質物体表面洗浄液組成物に、さらに香料の可溶化剤あるいは乳化剤としての界面活性剤を添加することが好ましい。上記界面活性剤としては、例えば、ノニオン系界面活性剤があり、代表的なものとして、ポリオキシエチレン（オキシエチレン基の平均付加モル数が1～20）基を含むアルコールエーテルや脂肪酸アルカノールアミド、ポリオキシエチレン-ポリオキシプロピレン（オキシエチレン基の平均付加モル数とオキシプロピレン基の平均付加モル数との和が1～20）基を含むアルコールエーテルや脂肪酸アルコールアミドなどが挙げられる。より具体的にはたとえば、ポリオキシエチレン（1.3）ノニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンステアリルエーテル、ポリオキシエチレンオレイルセチルエーテルなどが挙げられる。

【0014】

本発明では必要に応じてさらに上記組成物の粘度を調整するための増粘度剤や外観を向上するための染料や顔料のような着色剤を配合することができる。上記増粘度剤としては、ポリアクリル酸塩、アクリル酸マレイン酸共重合物やカルボキシメチルセルロース誘導体等をあげることができる。なお、少量の無機酸を共存

させててもよい。

【0015】

かくして調製された組成物はそのままでも消臭洗浄液として使用できるが、さらに通常の硬質物体表面洗浄液に配合させる他の化合物を添加・配合してもよい。例えば、両性界面活性剤系消臭剤、植物抽出物、非イオン系界面活性剤、陰イオン系界面活性剤、色素などが挙げられる。

【0016】

本発明の硬質物体表面洗浄液用香料組成物は、硬質物体表面洗浄液最終製品内に配合させることができるのであり、とくにその配合量はとくに限定されないのであるが、例えば硬質物体表面洗浄液最終製品の全組成に対して0.01重量%～3.0重量%、特に0.1重量%～0.5重量%を含有させることが好ましい。

本発明の硬質物体表面洗浄液用組成物あるいは硬質物体表面洗浄液製品は、とくに浴室のタイルや浴槽、トイレ内での便器など硬質物体表面の洗浄のために使用できる。

【0017】

【実施例】

以下、実施例によって本発明を具体的に説明するが、本発明はこれらによってなんら限定されるものではない。

【0018】

【実施例1】

以下の処方の成分を常法に従い混合し、硬質物体表面洗浄液用組成物を製造した。なお、得られた組成物のpHは2.0になるよう調整した。

成分	重量%
リンゴ酸（99.5%）	3.5
ポリオキシエチレン（13）ノニルフェニルエーテル (ノニポール130)	3.0
香料	0.3
精製水	バランス

合計

100.0

上記処方中の香料は、表1に記載の各香料化合物である。

【0019】

【実施例2】評価

本発明の硬質物体表面洗浄液用組成物中の香料組成物の効果を確認するために、以下の評価を行った。具体的には、5人のパネラーが組成物の外観および香質について官能評価することにより判定し、またpHの変化の有無をpHメーターで測定した。

実施例1で製造した各種香料化合物を含有する硬質物体表面洗浄液用組成物の溶液30gを50mlガラス容器2個それぞれにとり、50℃と5℃（コントロール）の温度下に保管した。その保管したときから2週間経過後と4週間経過後に、50℃で保管した硬質物体表面洗浄液組成物の外観並びに香質を、5℃で保管した硬質物体表面洗浄液組成物と比較することにより官能評価した。また、pHに関しては、5℃及び50℃にて4週間経過後の値を測定した。なお、評価のための実験開始時においては洗浄液組成物のpHは2.0であった。また、ブランクとして、実施例1の処方で、香料を添加せずに製造した硬質物体表面洗浄液用組成物を用いて、上記と同様に外観と香質を官能評価し、pHを測定した。

得られた結果を表1、2に示す。

【0020】

なお、5℃で保管した香料組成物を含む硬質物体表面洗浄液用組成物は外観および香質共安定であることを確認してある。また、ブランクとして香料を添加・配合していない硬質物体表面洗浄液用組成物は4週間経過しても、外観や香質の変化はなく、またpHの変化も少ないと確認してある。

外観及び香質官能評価は次の5段階で行った。

5：変化なし

4：やや変化あり

3：変化あり

2：かなり変化あり

1：激しく変化

【0021】

【表1】

香料化合物名	外観官能評価 値		香質官能評価 値		5°C 4週間後のp H	50°C
	2週間 後	4週間 後	2週間 後	4週間 後		
2, 6-ジメチル-2-ヘプタノール	5	5	5	5	1.94	1.94
3, 3'-ジメチルシクロヘキシルメチルケトン	5	5	5	5	1.94	1.94
o-tert-ブチルシクロヘキサノール	5	5	5	5	1.96	1.96
α-アミルシンナミックアルデヒド	5	5	5	5	1.94	1.94
α-ダマスクン	5	5	5	5	1.95	1.95
γ-オクタラクトン	5	5	5	5	1.96	1.96
γ-ノナラクトン	5	5	5	5	1.96	1.96
γ-デカラクトン	5	5	5	5	1.94	1.94
アネトール	5	5	5	5	1.94	1.94
安息香酸エチル	5	5	5	5	1.95	1.95
2, 2, 6-トリメチルシクロヘキサンカルボン酸エチルエステル	5	5	5	5	1.94	1.94
2, 6, 6-トリメチル-1-クロトニルシクロヘキサン	5	5	5	5	1.94	1.94
7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン	5	5	5	5	1.94	1.94
イソアミルフェニルエチルエーテル	5	5	5	5	1.96	1.96
オクチンカルボン酸メチル	5	5	5	5	1.96	1.96

【0022】

【表2】 (表1の続き)

6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタメチル-4 (5H)-イン	5	5	5	5	1.94	1.94
ダノン	5	5	5	5	1.95	1.95
酢酸トリシクロデセニル	5	5	5	5	1.94	1.94
ウンデシルアルデヒド	5	5	5	5	1.95	1.95
酢酸フェンキル	5	5	5	5	1.94	1.94
ジヒドロジャスモン	5	5	5	5	1.95	1.95
セドリルメチルエーテル	5	5	5	5	1.94	1.94
パラクレゾール	5	5	5	5	1.95	1.95
ヘキシルアルデヒド	5	5	5	5	1.94	1.94
ローズフェノン	5	5	5	5	1.97	1.97

表1、2に記載した香料化合物は、外観、香質が変化せず、また、pHの変化もみられず、pH 2.0の硬質物体表面洗浄液用組成物中で長期間保存が可能であった。

【0023】

【比較例】

表3に記載の香料化合物を用いて、実施例1と同様に硬質物体表面洗浄液用組成物を製造した。さらに、実施例2と同様な方法で、官能評価およびpH測定を行った。

得られた結果を表3に示す。

【表3】比較例

香料化合物名	外観官能評価値		香質官能評価値		5°C	50°C
	2週間後	4週間後	2週間後	4週間後	4週間後のpH	
リナロール	5	4(黄変)	1.5	1	1.96	1.95
シトロネロール	5	5	3	3	1.95	1.95
ゲラニオール	4(黄変)	4(黄変)	2	1	1.95	1.96
アロオシメノール	5	5	1	1	1.96	1.96
酢酸フェニルエチル	5	4.5	2	1	1.96	1.96
ターピネオール	5	4.5	1	1	1.95	1.95
酢酸フェニルエチル	5	4.5	2	1	1.96	1.96
L-メントール	5	5	4	3	1.96	1.96
ユーカリ	5	5	5	3	1.95	1.95
ヘリオナール	4(黄変)	3(黄褐変)	4	4	1.94	1.94

表3に記載の香料化合物は、酸性硬質物体表面洗浄液用組成物中に保存すると、外観が黄色化したり香質が変化するなどの経時変化が観察された。

【0024】

【発明の効果】

本発明により、強酸性条件、とくにpH 2.0～3.0の酸性の硬質物体表面洗浄液に配合しても、当初の香質及び外観を変化させることなく、長期間保存可能な香料化合物や香料組成物を提供することができる。さらに、当該香料化合物や香料組成物を含有する硬質物体表面洗浄液組成物を提供することができる。

この洗浄液組成物は有機酸にて酸性に調整されており、安全性に優れしており、しかも洗浄機能も優れている。

しかも、本発明の香料化合物あるいは香料組成物を含有する洗浄液製品は安定な香料が使用されているので、香料化合物の劣化がなく、安定した香調を保持することができ、極めて有効的である。

特願2002-235537

ページ： 13/E

出証特2003-3054378

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

有機酸で酸性、特にpH 2.0～3.0に調整した酸性硬質物体表面洗浄液中において長期間安定な香料化合物及び香料組成物を見いだすこと。

【解決する手段】

2, 6-ジメチル-2-ヘプタノール、3, 3'-ジメチルシクロヘキシルメチルケトン、o-tert-ブチルシクロヘキサノール、 α -アミルシンナミックアルデヒド、 α -ダマスコン、 γ -オクタラクトン、 γ -ノナラクトン、 γ -デカラクトン、アネトール、安息香酸エチル、2, 2, 6-トリメチルシクロヘキサンカルボン酸エチルエステル、2, 6, 6-トリメチル-1-クロトニルシクロヘキサン、7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン、イソアミルフェニルエチルエーテル、オクチンカルボン酸メチル、6, 7-ジヒドロ-1, 1, 2, 3, 3-ペンタメチル-4 (5H)-インダノン、酢酸トリシクロデセニル、ウンデシルアルデヒド、酢酸フェンキル、ジヒドロジャスモン、セドリルメチルエーテル、パラクレゾール、ヘキシルアルデヒド及びローズフェノンから選ばれる香料化合物の1種又は2種以上が安定である。

【選択図】 なし。

認定・付加情報

特許出願の番号 特願2002-235537
受付番号 50201204518
書類名 特許願
担当官 第六担当上席 0095
作成日 平成14年 8月14日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成14年 8月13日

次頁無

特願2002-235537

出願人履歴情報

識別番号 [000169466]

1. 変更年月日 1998年11月26日

[変更理由] 住所変更

住 所 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア

17・18階

氏 名 高砂香料工業株式会社

2. 変更年月日 1999年 3月 4日

[変更理由] 住所変更

住 所 東京都大田区蒲田五丁目37番1号

氏 名 高砂香料工業株式会社